心豊かな世代が育つ童話の里づくり 434

―シリーズ― あなたの人権・わたしの人権

「心の声からはじまる差別」

塚脇小学校　6年　小野　愛莉

皆さんの人権は守られていますか。私は社会の学習で、基本的人権について学習しました。

全ての人が生まれながらにして自由で平等であることや誰もが幸せに暮らすことが日本国憲法で守られているのです。しかし、学習する中で十分守られていない人権があることも知りました。部落差別、障がいのある人の仕事、育児などまだまだ問題はあります。

ところで、皆さんはコロナ差別というものを聞いたことがありますか。

コロナ差別とは、一度コロナウイルス感染症にかかった人やその人の家族を避けたり、かげ口を言ったりして相手を傷つけることです。まるでその人がバイキンかのように接することです。また、事実ではない嘘が広まってしまい、傷ついてしまう人もいます。

では、どうしてそんな差別は起こるのでしょうか。私は「差別は絶対にしてはいけない」「私は差別などしていない」と思っている人でも差別をしてしまう心を持っているからだと思います。

今、学校ではマスクをつけることが当たり前になっています。私もマスクをつけずに大きな声で喋っている友だちを見ると「いやだな、マスクつけてほしいな」と思うようになりました。

ほかにも、人がたくさん集まると気になったり、熱があると心配になったりします。このようにコロナの影響で、みんなの感じ方がこれまでとは変わってきています。

また、自分が住んでいる町で県外ナンバープレートを見つけたら「うわっ、コロナがはやっているのに県外から来ている」「県外からは来ないでほしいな」と言ったことや思ったことはありませんか。

これは多くの人が当たり前に感じていることで、何もおかしいこととしてはとらえられていなかったように思います。でも、そんな心の声が知らず知らずのうちに私たちの心の中に広がって、差別につながっていくのだと思います。

みなさんが「差別」と聞いて想像するものは、もっとひどいことや激しいことだと思います。しかし、コロナ差別が生まれたように差別は意外と身近なところから起こってくるものかもしれません。

差別を引き起こす心は気がつかないうちに誰にでもあるのです。

あなたがふと思った一言で傷つく人がいるかもしれません。差別はさりげなく起こってしまうのです。

差別をなくすには身の回りの差別について考える機会を増やすことが大切だと思っています。

差別は身の回りにもたくさんあって特別な問題ではないと思います。そのことをみんなに知ってほしいと思います。差別する、差別される、いつ誰がそんな立場になるかはわかりません。他人事ではなく、自分たちの問題として考えることが大切だと思います。

最近、シトラスリボンというプロジェクトを知りました。

シトラスリボンプロジェクトとは、コロナ禍で生まれた差別をなくし、みんなが安心して暮らせることを目指す取り組みです。この取り組みに賛成する人はシトラスカラーのリボンを身に着けています。

このリボンは誰でも簡単に作れるので学校や職場など様々な場所で活動が広がっています。このような活動がさらに広がって、みんなが平等で自由に暮らせる社会になってほしいと思います。

この人権作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。また、みなさんの投稿もお待ちしています。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別性について気づいたことや感じたことを一二〇〇字程度にまとめて、住所、氏名、連絡先電話番号を記入して（匿名も可）、玖珠町教育委員会社会教育課「あなたの人権・わたしの人権」までお届けください。